令和３年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 20	公益目的事業　19
主査名	高橋愛典　近畿大学教授　　松澤俊雄　大阪市立大学名誉教授	
研究テーマ	コロナ禍を契機とした「地域・都市の総合交通政策」再考： 移動・モビリティの改善による「まちの活性化」の方向性	

整備と運営を一体的に行うという総合交通政策の考え方を踏まえ、道路混雑の緩和、環境負荷および交通事故の低減、省エネルギーといった面から、自動車利用の適正化を通じた効率的・公平的・省力的な地域・都市のモビリティ構築を目指した研究を、従来のプロジェクトでは行ってきた。具体的な研究テーマは、(1)陸・海・空の交通空間（インフラ）の有効活用、(2)旅客交通における個別交通機関（自家用乗用車）と路面公共交通（バス・路面電車・LRT）の走行環境改善と適切な役割分担、(3)貨物輸送（物流）を主軸としたインターモーダリティの実現・サプライチェーン全体の効率化、である。

当プロジェクトの特徴の一つは、研究メンバーの多くが京阪神都市圏在住・在勤という点である。そこで、首都圏以外の大都市圏、さらには地方都市を主な対象とし、路面公共交通の走行環境改善による都市（圏）全体のモビリティ改善、さらには都心方向への旅客トリップ誘発と都心部・中心市街地活性化、生活の質(QOL)向上を特に念頭に置いた研究を進めてきた。

プロジェクトではここ数年、総合交通政策全般や交通事業の規制（緩和）政策一般をテーマとした研究に重きがあったが、令和 3 年度は、上記の基本姿勢を保ちつつも、サブタイトルに示したように新型コロナウイルス感染拡大を契機にモビリティの意味を再考することを柱としたい。コロナ禍の影響が各種の統計に反映されるまでは今しばらく時間を要すると思われるが、その間に総合交通政策に関する地域・都市を絞ったケーススタディを進め、近い将来データの分析および解釈が可能になったコロナウイルスス研究基盤の構築を進めたい。

研究の方法は、1)当プロジェクトの全体研究報告会：年 5 回程度×報告者 2 組の予定で開催する。さらに、必要に応じ他のプロジェクトとの共催も通じて議論を進展させる。文献紹介の機会も設けたい。2)必要に応じて、研究メンバーが実施する調査活動への（一部）補助を行う。3)運賃論・都市交通論・自動車交通論・総合交通政策など、交通経済学を中心とした文献講読を継続し、交通政策の理解を深める（「交通経済理論研究会」と共催：年６～７回）。4)研究過程において、都市圏交通、総合交通政策、自動車交通などに関するデータベースの整備（入手・加工委託：パーソントリップ調査、国勢調査、各種交通・物流関連センサス、その他経済データ)を進める。